

1

(8 完答)

- 1 み
- 2 くわ
- 3 ウ
- 4 ア
- 5 A
- 6 ア

7 I 好奇心のむかうことがら

- 7 II 範囲
- 8 A エ
- B ア
- C ウ

- 9 心
- 10 ア

- 11 a 航海
- b 上陸
- c 発生

2

- 1 a 失礼
- b 板間
- c 観察

d 転落

- 2 エウレイ
- 3 息
- 4 イ
- 5 ウ

6 大きなイチヨウの木

- 7 ウ
- 8 (記述題)
- 9 梅雨
- 10 エ
- 11 ア

2

8

と	と	入	を	子
を	れ	り	踏	ど
思	ず	の	ん	も
い	、	靴	づ	の
出	悲	か	け	時
し	し	ら	て	分
た	か	に	、	に
か	っ	お	お	、
ら	た	い	気	銀
。	こ	が	に	杏

(同意可)

配点	
1	11
2	8
その他	
各2点×7=14点	
6点	
各4点×20=80点	
100点	

1 「くまなく」は「すみずみまで」の意味。「たいへん好奇心の強い動物」↓「動きまわる」・「探検してまわります」などの表現から意味を考へることが必要であった。

2 前後の内容から、「それがどんなものか」②「という部分が「好奇心(が強い)」にあたることを読み取ろう。そのあとは言いかけた表現を探していくのだが、「それがどんなものか」にうまくつながる部分を探す必要がある。

3 イの「雉も鳴かずば打たれまい」は意味的にはやや近いのだが、あくまでねこの話であることには注意を払いたいところである。

4 「ねこは好奇心の強い動物である」↓しかし↓「一番は人間である」↓「ねこはくであるのに対し、人間はくである」という流れになつているので、続く部分から考へるのが筋が良い。人間の好奇心が他の動物とどう違うかを述べている選択肢を選ぼう。イは技術に限定しているところが、好奇心そのものの説明にならないのでよくない。エは問いに対する答えになつていない。

5 「の」の識別において、「が」に置き換えられるものを見分けられるのは初歩の初歩である。確実にしておこう。Bは体言代用、Cは連体修飾である。

6 「太陽そのものに人間がジョウリクすることは、不可能」や「人間が生まれたまま近くくことはできない」などから考へる。

7 IIは直後にある通りなので、平易だろう。Iは要するに「好奇心の対象」ということなのだが、やや離れたところにあるので探す手間がかかるかもしれない。

8 「さらには」と「また」は区別がやや難しいかもしれないが、「また」は対等に並べるのに対し、「さらには」にはより広げた話に展開していく際にも用いることができるという違いがある。

9 「しかし」や「それで」とあるので、まずは直前の一文も確認し、「個人」を構成するもののうち、「からだ」はなくなるということ述べているのを確認する。そして、問いが要求しているように、「では、なくなるとすれば」という状況を考へるので、「からだ」以外に「個人」をつくるものがあるかと考へる人がいることについて書かれている、続く部分を確認すればよい。

10 「つまり」といって、話の要点を述べてくれている、次段落を参照する。(死後の世界はない)と考へるのも、(死にかんすることに好奇心を持った)からこそだと述べているのである。

11 a「航」の字形に注意しよう。「公開」や「後悔」などの同音異義語とも混同しないように。b「上陸」は「陸」のつくりを正確に書こう。c「発生」は、「人類が発生する」という言い回しに違和感があったかもしれない。「宇宙のはじまり」などと並列されていることから、科学的な文脈で人類の誕生のことを言っているのだととらえられるようになりたい。

2

1 a「失」は「矢」、「礼」は「札」などと区別がつくように書くこと。b「板間」は漢字はやさしいが知らなければ書けなかったかもしれない。「畳敷き」と並べられていたことから考へられるとよかった。c「観察」は画数が多いので字形に注意して書くこと。d「転」は「軽」などと混同しない。「落」はあくまで「くさかんむり」であつて、全体として「さんずい」であるようなバランスにならないよう気をつけよう。

2 続く箇所を読んでいけばわかるだろう。格安物件の相談をしている場面なのでこういう時のパターンとしても知っておきたい。

3 「肩をすくめる」を完成させた上で、「肩で◆をする」という慣用表現を知っているかが問われていた。「肩をすくめる」を完成させるには直後の「そんな本気で云った訳じゃないのに」が、「肩で息をする」を完成させるには直前の「しばらくの格闘のち、苦勞して…」の部分ヒントになっている。

4 「おんぼろアパート」とはつきり書いてあり、直前にも「く、わたしはそう思う」といいた」とある。つまり、意識的にそうしない限り、「悪い」と思ってしまうということである。

5 エと混同しないように気をつけること。あらかじめ暗い部屋だとわかっていたわけではないからこそ、自分で見たほうがはやいというところで見に来たのであつた。「ほんとうは部屋に入った時から判っていた」ともあるが、この時点で不動産屋の話が暗いことの原因というところまで踏み込んでいると考へるのは飛躍しすぎだろう。

6 「原因は窓の外」だけでは、結局のところ「何が」原因なのかわからないので、はつきりさせてほしいという問いである。問いの要求さえ読み取れれば、設問の内容はきわめて平易だろう。

7 論理的な可能性は「わたしの用語法が間違つていて、実はちゃんとしている」か「相手の用語法が間違つていて、全然ちゃんとしていない」の二択である。あきらかに「おんぼろアパート」であり、直前でも「しばらくの格闘のち、苦勞して窓をこじ開けた」とあるので、後者に沿つた選択肢を選ぶ。

8 直後に「嫌なことを思い出したからだ」とある。あとは字数指定にしたがつて、「嫌なこと」を具体化すればよいだろう。表情の理由が問われているので、はつきり「悲しい」などを入れるのが字数的に難しくても、せめて「くしまう」などのマイナス方向の受け取り方を示す表現は盛り込みたいところである。

9 「長く住む予定ではなかった」や「仮の住処」という表現は随所に見られる。時や場所をあらわす表現は場面の導入か締めくくりにあることも多い。ここでもアパートに移動した部分にある。

10 日常の話言葉の中でも「けっこうです」は幅広く文脈に依存して使われる表現で、「けっこうな物をく」などと使えば尊重する意味合いが込められるが、「もうけっこうです」などと使えば多くは断りを意味している。ここではこれ以上の物件見学は必要ないということなので、「ここを選んで契約する」ということ。傍線部の直前の「ここで」とのつながりを考へるとアやウはやや不自然だろう。

11 格安物件で悪条件にあることや、「わたしのような学生はただの冷やかして来ているだけだと思われているのだろうか」などの表現も直接不動産屋の心境を表したのではないが、参考にしてよいだろう。